

カーペット（繊維系床材）のメンテナンスレポート

クリーニング方式編 カーペットの洗浄クリーニングとメンテナンスポイント

各洗浄方式における事前バキュームについて



【作業工程】

- 1) 粗ゴミを回収する。
- 2) 作業エリアのパイルが潰れている方向を確認
- 3) アップライトバキュームで、洗浄するエリアをバキュームする。



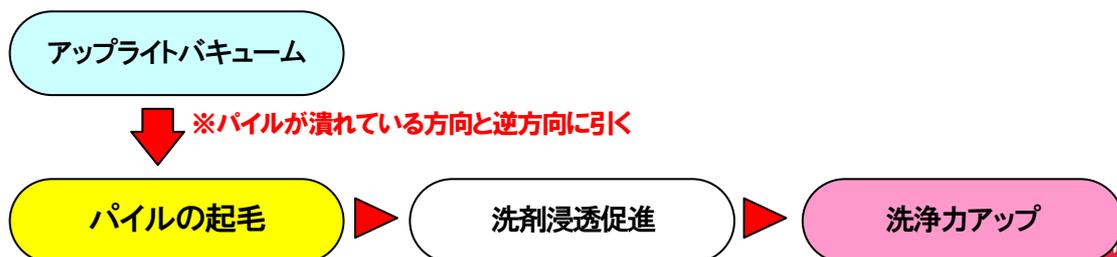
ウィックバックを防止する事、洗浄効果を向上させる事を目的に行う。
 洗剤を使用するクリーニング作業前にバキュームを行うもう一つの理由が、パイルを起毛させる事であるため、使用するバキュームは必ずアップライト型バキュームを使用する必要がある。

洗剤の浸透を早め、洗浄効果をUPさせるために、パイルを起毛する

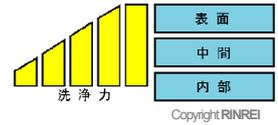
パイルが潰れたままの状態でも洗浄を行っても、表面的な汚れを除去するだけで、パイル内部の洗浄・除去は行えないので、洗浄前のパイル起毛は必須の作業になる。
 洗浄前に行うバキューム作業は、パイルの潰れた方向と逆の方向にバキュームを行う必要があるため、**洗浄前に実施するバキュームは、必ずアップライトバキュームを使用し、バキュームを行う前にパイルの潰れている方向を確認した上で、潰れている方向とは逆の方向に、ゆっくりとバキュームを引きながらバキュームを掛ける必要がある。**



アップライトバキュームを使用したバキューム作業の方向



6b 2ステップPlus方式



作業効率: 100 m²/1時間・1名
 使用洗剤: アルカリ発泡性クリーナー
 ※前処理剤はプレスブレードクリーナー
 使用機材: ・ポリッシャー、ブラシ
 ・エクストラクター
 ・目立てブラシ、(スプレーヤー)

- [長所]
- 汚れの激しい所に適した方式で、パイル内部の汚れも除去する事ができる。
 - 洗剤の残留が少なく、再汚染されにくい状態で仕上がる。
 - 広いスペースもムラなく均一に仕上げる事が可能。
 - ドライボンネットを行う事で汚れ除去性向上と乾燥時間の大幅短縮が可能。

- [短所]
- 強い研磨力によりカーペットパイルが傷みやすくなる。
 - 2工程になることで、作業員数、使用する機械が多くなる。
 - 他の方式と比べ水を多量使用するため、織りカーペットでは縮みを起こし易くなる。

(メンテナンスポイント)

作業を始める前に、カーペットの施工方法を確認し、グリッパー工法などカーペットが縮んだ際に問題のある施工かどうかを確認し、必要に応じて釘打ちなどの対策を取ります。

洗浄力の高いアルカリ洗剤を使用して、シャンピングポリッシャーで洗浄した後、リンサーを用いてすすぎ、汚水回収を行う洗浄方式です。 ※アルカリ洗剤はウールなど天然素材には使用できません

作業前に汚れの多い箇所は**プレスブレード液を予め噴霧器などでスプレーしておく**ことが重要です。

また、**汚油脂汚れや汚れの激しい場所では洗剤を50℃程度の温水で希釈**して洗浄を行うと効果的です。

歩行量が多くパイルが潰れたエリアは、ポリッシャーでクロス洗浄し、パイルを起こしながら洗浄を行う必要があります。

洗浄力はストレートブラシが勝りますが、ウールやアクリルなどの場合は必ず先割れブラシを使用します。

作業後、乾燥までに時間がかかるとウィックバック発生の原因になるので、**ドライボンネットを用いたPlus方式**を行うことで**ウィックバックを抑制**するだけでなく、仕上がりりを良くし乾燥時間を短縮させることが出来ます。

洗浄作業終了後、**目立てブラシを用いてパイルの目立てを行って**おくことで、乾燥を早める効果があります。

洗浄適性一覧	カットパイル		ループパイル		カット&ループ	
	毛足短い ヘロア等	毛足長い サキノニ等	高低差あり H/Lループ等	レベルループ	ハイカット ロールアップ	レベルカット レベルループ
アキスミンスター	○	×	/	/	●	○
ウルトン	○	×	/	/	●	○
タフテッド	○	×	●	○	●	○
タイルカーペット	○	×	●	○	●	○
コードカーペット	/	/	/	○	/	/
電着(人工芝など)	●	▲	/	/	/	/
ニードルパンチ※			● パイルの無いカーペット			

Copyright RINREI

○:適している ●:適するが制約あり ▲:あまり適していない ×:適用不可

